

各種ルールの修正点・改正点について

1 6人制改正点・修正点

2014年10月31日、11月1日にイタリア・サルディーニャ島のキャリアリで開催されたFIVB総会において、国際競技規則が一部改正された。

本競技規則は、この改正を踏まえて編集するとともに、条項番号、項目に網掛けをするなど見易くした。

●改正点

① 1.1 規格 (DIMENSIONS)

コートは18m × 9mの長方形で、最小限3mの幅のフリーゾーンで囲まれている。フリープレー空間は、障害物が何もない競技エリアの上方の空間で、競技をする表面から、最小限7mの高さがなければならない。 *付則の1

国際バレーボール連盟(以下FIVB)世界・公式大会では、フリーゾーンの幅はサイドラインから最小限5m、エンドラインから最小限6.5mなければならない。フリープレー空間は競技エリアの表面から最小限12.5mの高さが必要である。

② 2.2 構造 (STRUCTURE)

ネットは縦幅1m、長さは9.5~10m(サイドバンドの外側は両端各25~50cm)で、10cm角の黒い網目で作られている。(第3図) *付則の4

FIVB世界・公式大会では、その大会規定により、マーケティング契約に応じた広告をするためにネットの網目の大きさを変更することができる。

③ 3.3 ファイブボールシステム (FIVE-BALL SYSTEM)

FIVB世界・公式大会では、1つの試合に5個のボールを使用する。この場合は、フリーゾーンの4カ所のコーナーと主審、副審の後ろに計6人のボールリトリバーが配置につく。(第10図)

④ 4.1 チーム構成 (TEAM COMPOSITION)

4.1.1 試合のために1チームは12人までの選手と、さらに次のスタッフで構成することができる。 *付則の6

※コーチングスタッフ：1人の監督、最大2人のアシスタントコーチ

※医療スタッフ：1人のチームセラピストと1人の医師

記録用紙に記入されているこれらのメンバーだけが競技コントロールエリアに入ることができ、公式ウォームアップと試合に参加することができる。

FIVB世界・公式大会のシニアカテゴリーでは、14人までの選手が記録用紙に記載され試合でプレーすることができる。(監督を含む)最大5人のベンチスタッフは、監督自身によって決定され、記録用紙に記入され、O-2 (bis) に登録される。

FIVB世界・公式大会では、医師とチームセラピストはチーム構成員の一員となるために、事前にFIVBから資格認定を受けなければならない。しかし、FIVB世界・公式大会のシニアカテゴリーでは、医師とチームセラピストがベンチスタッフの5人の中に含まれていない場合は、競技コントロールエリア内のフェンス付近に座り、審判員に要請されたときに限り、選手への緊急的な医療処置を行うことができる。

(たとえベンチにいなくても) チームセラピストは、公式プロトコール開始前まではウォームアップに参加してもよい。

- ⑤ 4.2.4 セット間は、選手は自チームのフリーゾーン内でボールを使い、ウォームアップすることができる。第2 セットと第3 セットの間の延長されたインターバルでは、(もしも使用するのであれば) 自チームのコート内でボールを使うことができる。

- ⑥ 4.5 禁止される物 (FORBIDDEN OBJECTS)

4.5.3 圧迫用サポーター (パッド入りの負傷部を保護する装具) は、保護やサポートのために着用することができる。

FIVB 世界・公式大会のシニアカテゴリーでは、これらのサポーターはユニフォームの部分と対応した同じ色でなければならない。

- ⑦ 6.1.3 ラリーと完了したラリー

ラリーとは、サーバーにより打たれたサービスの時点から、ボールがアウトオブプレーとなるまでの、一連のプレーの動作である。完了したラリーとは、一連のプレーの動作の結果で1 点が与えられたときをいう。これには、ペナルティやディレイインサービス (サービス時8 秒ルールの反則) も含まれる。

- ⑧ 7.2 公式ウォームアップ (OFFICIAL WARM-UP SESSION)

7.2.1 両チームが事前に試合コートでウォームアップしていたなら、ネットでの試合開始前の公式ウォームアップは、両チーム合わせて6 分間行うことができる。そうでない場合は、10 分間ウォームアップすることができる。

FIVB 世界・公式大会では、チームは両チーム合わせて10 分間のネットを使用したウォームアップをする権利がある。

- ⑨ 7.7 ローテーションの反則 (ROTATIONAL FAULT)

7.7.1 サービスが正しくローテーション順に行われなかったとき、ローテーションの反則となる。その場合は次のような順序の結果となる：

7.7.1.1 相手チームに1 点と次のサービスが与えられる。(規則6.1.3)

7.7.1.2 選手のローテーション順は正しく直される。

7.7.2 これに加え、記録員は反則がどの時点で発生したかを特定しなければならない。チームが反則をしている間に得たすべての得点は取り消される。相手チームの得点はそのまま有効となる。

反則発生の時点を特定できない場合には、得点の取り消しはなく、相手チームに1 点と次のサービスが与えられる。(規則6.1.3)

- ⑩ 8.3 ボール “イン” (BALL “IN”)

ボールがフロアに接触したとき、ボールの一部でも区画線を含むコートに触れた場合はボール “イン” である。(規則1.3.2)

- ⑪ 9.2.4 削除

- ⑫ 11.3 ネットへの接触 (CONTACT WITH THE NET)

11.3.1 ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。

ボールをプレーする動作の中には、(主に) 踏み切りからヒット (またはプレーの試み)、着地までが含まれる。

- ⑬ 11.4.4. プレーに対する (主な) 妨害 (規則11.3.1) :

- ボールをプレーする動作中に、両アンテナ間のネット、またはアンテナに触れること。
- 支持を得たり、身体を安定させたりするために両アンテナ間のネットを使うこと。
- ネットに触れることにより相手チームに対して自チームが有利な状況を不正につくり出すこと。
- 相手チームによる正当なボールへのプレーの試みに対し、それを妨害する動作をすること。
- ネットをつかんだり、握ったりすること。

ボールがプレーされているときに、ボールの近くにいる選手やボールをプレーしようとしている選手は、たとえボールに触れなくてもボールをプレーする動作中とみなされる。

しかし、アンテナ外側のネットに触れることは反則ではない。（規則9.1.3を除く）

⑭ 15.1 正規の試合中断の回数（NUMBER OF REGULAR GAME INTERRUPTIONS）

各チームは、1セットにつき2回までのタイムアウトと、6回までの選手交代を要求することができる。

FIVB世界・公式大会のシニアカテゴリーでは、スポンサー、マーケティングおよび放送局の合意に基づき、FIVBはタイムアウト、および（または）テクニカルタイムアウトの回数を1回ずつ減らすことができる。

⑮ 19.1.1 各チームは、記録用紙の選手リストの中から守備専門の選手であるリベロを2人まで指名することができる。（規則4.1.1）

FIVB世界・公式大会のシニアカテゴリーでは、チームが記録用紙に12人を超えた選手を記載している場合は、チームリストには2人のリベロを置かなければならない。

⑯ 22.2 手順（PROCEDURES）

22.2.3.1 副審は、主審のハンドシグナルを追従する。（削除）

⑰ 22.2.3.3 バックプレーヤーまたはリベロのアタックヒットの反則あるいはブロックの反則をした場合は、規則22.2.3.1と22.2.3.2に従って主審と副審が示す。

⑱ 小学生バレーボール・フリーポジション制競技規則

第6条 ネット付近の選手

片方の足（両足）または片方の手（両手）がセンターラインを越えて相手コートに触れても、侵入している片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる身体の部分も相手コートに触れることは許されない。

第7条 選手交代の制限 （条，繰り下げ）

第8条 記録の方法 （条，繰り下げ）

●修正点

- 1 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
- 2 公式記録用紙の3セットマッチ用、5セットマッチ用の用語の統一をした。

2 9人制改正点・修正点

本年度は、試合の効率化や運営上の観点から試合開始時の『主審のプレーボールの合図』を廃止し、セット間の中断の時間を『2分間』から『3分間』に改めました。また、試合中断の不当な要求があった場合の措置や、『ベンチ』を『チームベンチ』に改めるなど規定の整備を行うとともに、主審が吹笛したとき『副審は主審のハンドシグナルに追従する』規定を6人制と同様に削除しました。

● 主な改・修正点は、次のとおりです。

- 1 第5条（競技参加者の権利と義務）について、競技参加者の服装（第5項）に、「選手は、圧迫用サポーターを保護やサポートのため着用することができる。」を加えた。（第5条第5項5）
- 2 第7条（試合の開始とサービス権の移行）について、試合の開始と進行（第1項）から「主審のプレーボールの合図後、」を削除した。（第7条第1項1）
- 3 第11条（セット間の中断）について、「セット間の中断の時間は、3分間とする。…」に改めた。
- 4 第13条（選手交代）について、正規の選手交代（第1項）から「選手交代の要求が不当な交代として拒否されたり、試合の遅延となったときは、試合の再開後、一つのラリーがあった後でなければ、そのチームは再び選手交代を要求することはできない。」（第1項8）を削除し、9を8に繰り上げた。
- 5 第14条（試合中断の不当な要求と処置）について、処置（第2項）に「不当な要求があった場合において前項の規定が適用されたときでも、そのチームは同じ中断中に異なる種類の中断の要求をすることができる。」を加えた。（第14条第2項2）
- 6 第29条（主審）について、責務（第2項）から「第1セット開始時には、吹笛と公式ハンドシグナルでプレーボールを合図する。」（2(1)）を削除し、(2)以下を1ずつ繰り上げた。
- 7 第33条（公式ハンドシグナル）について、
 - (1) 主審と副審の公式ハンドシグナル（第1項）から「この場合、副審は主審のハンドシグナルに追従する。」を削除した。（第33条第1項2(1)）
 - (2) 審判員の公式ハンドシグナル（第7図）から
 - ① 「プレーボール」（①）を削除し、②以下を1ずつ繰り上げた。
 - ② 副審のハンドシグナルの表記を削除した。（④、⑩）
- 8 公式記録記入法等について所要の改正をした。
- 9 「ベンチ」を「チームベンチ」に改める等字句を修正した。（第1条第5項ほか）

3 ソフトバレー改正点・修正点

● 本年度の改・修正点

1 改正点

(1) チームキャプテンの権利と義務

チームキャプテンは、試合中、選手交代をしてコートを離れるときは、ゲームキャプテンとしての権利を失うため、コート内の選手から代理のゲームキャプテンを指名しなければならない。（Ⅱ-2-(3)-3）

(2) チームの公式ウォームアップ

注解 チームの公式ウォームアップ時間については、大会運営や参加選手への負担を考慮し

主催者の判断により短縮することができる。(Ⅲ-2)

2 修正点

(1) 主審の責務

主審は、試合中、次の権限をもつ。

- ① 略
- ② 次のことを吹笛し判定する。(付則Ⅰ-(2)-2)-②)

(2) 公式ハンドシグナル

1) 主・副審のハンドシグナル

「副審は、主審のハンドシグナルを追従する。」を削除した。

2) 第2 図 主審と副審の公式ハンドシグナル

- ① 各ハンドシグナルに連番を付し、適用条項を加えた。
- ② 各ハンドシグナルを示すべき主審・副審の表示を修正した。
- ③ フットフォルトのハンドシグナルの手順を修正した。

3) 第3 図 線審のフラッグシグナル

- ① 各ハンドシグナルに連番を加えた。
- ② 「グッド」を「ボールイン」、「アウト」を「ボールアウト」に修正した。

(3) 字句と数値の修正を行った。

- 1) 「ベンチ」を全て「チームベンチ」に修正した。
- 2) 各図に図解で示すタイトルを入れた。
- 3) 選手の位置とローテーションに関する注解に、見出し等を加える修正した。
- 4) コートの交替に関する見出しに「コートチェンジ」を加え、合わせて「チェンジコート」を全て「コートチェンジ」に修正した。
- 5) ボールインとボールアウトの第6 図について、インプレーとなる許容空間を含めた図解に修正した。

4 ビーチバレー改正点・修正点

● 修正点

- 1 4.5.3 圧迫用サポーター(パッド入りの負傷部を保護する装具)は、保護やサポートのために着用することができる。

FIVB 世界・公式大会のシニアカテゴリーでは、これらのサポーターはユニフォームの部分と対応した色でなければならない。

2 6.1.3 ラリーと完了したラリー

ラリーとは、サーバーにより打たれたサービスの時点から、ボールがアウトオブプレーとなるまでの、一連のプレー動作である。完了したラリーとは一連のプレー動作の結果で1 点が与えられたときをいう。これには、ペナルティやディレイインサービス(サービス時5 秒ルールの反則)も含まれる。

3 11.3 ネットへの接触(CONTACT WITH THE NET)

- 11.3.1 ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。ボールをプレーする動作には、(主に)踏み切りからヒット(またはプレーの試み)、着

地までが含まれる。

4 11.4.3 プレーに対する（主な）妨害

- ・ ボールをプレーする動作中に、両アンテナ間のネット、またはアンテナに触れること。
- ・ 支持を得たり、身体を安定させたりするために両アンテナ間のネットを使うこと。
- ・ ネットに触れることにより相手チームに対して自チームが有利な状況を不正につくり出すこと。
- ・ 相手チームによる正当なボールへのプレーの試みに対し、それを妨害する動作をすること。
- ・ ネットをつかんだり、握ったりすること。

ボールがプレーされているときに、ボールの近くにいる選手やボールをプレーしようとしている選手は、たとえボールに触れなくてもボールをプレーする動作中とみなされる。

しかし、アンテナ外側のネットに触れることは反則ではない。（規則9.1.3を除く）

5 21.2.3.1 副審は、主審のハンドシグナルを追従する。（削除）

6 21.2.3.3 主審によって次のサービスを行うチームを示す。

7 付則の2

1 セットマッチのときは、最小限2点差をつけて28点先取したチームがその試合の勝者となる。27-27の同点になった場合は、どちらかのチームが2点リードに達するまで試合は続行される。

8 付則の3

1 セットマッチのときは、両チームの得点合計が7点の倍数（7, 14, 21, 28, 35, …）になるたびにコートスイッチをする。

9 4人制競技規則 「6 試合形式」

6.1 1セットマッチの場合

最小限2点差をつけて28点を先取したチームがその試合の勝者となる。27-27の同点になった場合、試合はどちらかのチームが2点リードに達するまで続行される。

● 修正点

規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。